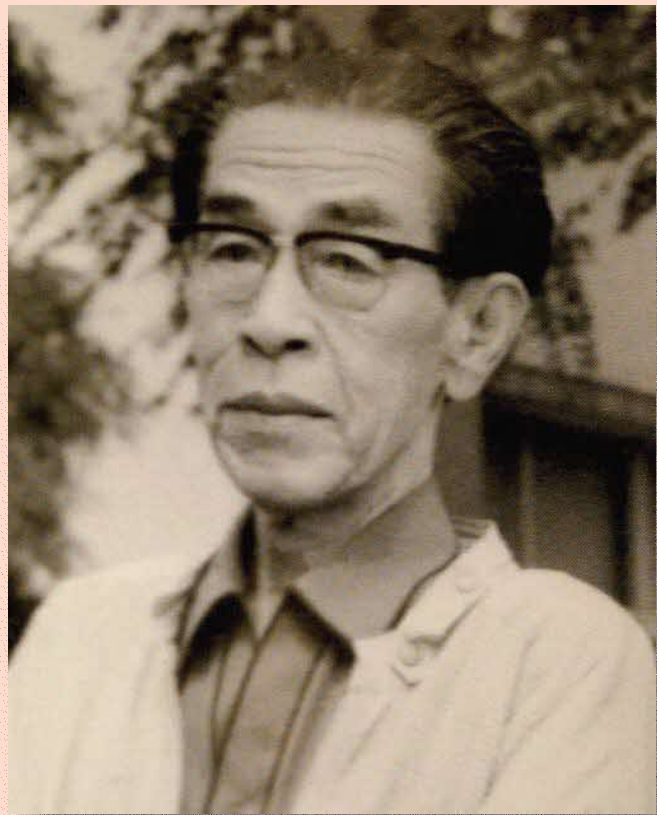


お  
お  
た  
せ  
い  
い  
ち  
**太田静一**山口市  
(1910～2003)

太田静一は、東京に生まれた。昭和二十一年、山口女子専門学校に着任。学制改革による科目編成の変更で、国文学演習に郷土文学研究を取り入れ、生涯執筆の主軸となる嘉村礒多・中原中也研究に学生と共に取り組む。同時に、総合文芸誌『文芸山口』を創刊。主宰として、最晩年まで研究評論を発表し続けた。

中原中也詩研究における、告白詩としての独得な解釈に対する大家たちからの批判攻撃にも屈せず、所信を貫く執筆姿勢を最後まで維持した。文芸への熱意と、反権力、反体制への信念。報われない人、弱い人たちへの人間味溢れる視線は、生涯変わることはなかった。(福田百合子)

## 【主な著作】

『嘉村礒多 人と作品』(弥生書房、昭和32年)

『中原中也詩研究』(審美社、昭和41年)

『中原中也詩における小林秀雄像』(桜楓社、昭和61年)